

麦類赤かび病の防除を徹底しましょう

麦類の赤かび病を発生させる病原菌のなかには、人や家畜に中毒症状を引き起こすかび毒(デオキシニバレノール：DON等)を産生するものがあり、農産物検査規格では、食用麦の赤かび粒の混入限度は全麦種で0.0%以下となっています。

赤かび病の発生した麦は商品価値がなくなるので、麦類赤かび病の防除を必ず実施しましょう。

今年産の麦類の生育は暖冬により早まっていますが、3月下旬～4月第1週目の低温により平年並に近づき、一部の地域では不稔粒の発生が懸念されるので注意が必要です。

気象庁の季節予報によると4月2～4週目の気温は平年並の確率が30%、高い確率が40%と予想されています。麦の生育ステージに合わせて的確に防除を行いましょう。

防除対策の決め手は予防的防除

- ・麦の生育状況を良く観察し、適期を逃さない防除が重要
- ・六条大麦や追肥をした小麦(タマイズミ等)は、2回防除が基本

防除適期

麦種	基本となる防除	多発のおそれがある場合 (不稔粒発生や登熟期に曇りや降雨が多い場合)
二条大麦	穂揃い期7～10日後	1回目の7～10日後に2回目散布
六条大麦	開花始めと開花10日後の2回散布	3回目散布
小麦	開花始めと開花20日後の2回散布	3回目散布

平年並～気温が1 高く推移した場合の出穂予測 農業試験場(宇都宮市)4月2日現在
 ミカモゴールド(二条大麦)：平年より1～3日早い
 シュンライ(六条大麦)：平年より1～4日早い(出穂から開花始めまでの日数：5～7日)
 農林61号(小麦)：平年より2～5日早い(出穂から開花始めまでの日数：5～8日)

表 麦類赤かび病に登録のある主な薬剤(平成21年4月2日現在)

薬剤名	作物名	希釈倍数	使用時期(収穫前日数)/使用回数
トップジンM水和剤	麦類(小麦を除く)	1,000～1,500倍	30日前まで/3回以内(出穂期以降は1回以内)
	小麦	1,000～1,500倍	14日前まで/3回以内(出穂期以降は2回以内)
シルバキュアフロアブル	小麦	2,000倍	7日前まで/2回以内
チルト乳剤25	大麦	1,000～2,000倍	21日前まで/1回以内
	小麦	1,000～2,000倍	3日前まで/3回以内
ストロビーフロアブル	麦類(小麦を除く)	2,000～3,000倍	14日前まで/3回以内
	小麦		

<無人ヘリコプターによる散布の登録がある薬剤>

薬剤名	作物名	希釈倍数	使用時期(収穫前日数)/使用回数
チルト乳剤25	大麦	8倍	21日前まで/1回以内
	小麦	8倍	7日前まで/3回以内
トップジンMゾル	麦類(小麦を除く)	8倍	21日前まで/3回以内(出穂期以降は1回以内)
	小麦	8倍	14日前まで/3回以内(出穂期以降は2回以内)

* 同系統薬剤の連用を避け、収穫前日数に留意して使用薬剤を選定する。

詳しくは、農業環境指導センター(<http://www.jpnp.ne.jp/tochigi/>)までお問い合わせください。
028-626-3086